

Q6

手足口病，伝染性紅斑，突発性発疹，かぜなどのウイルス性疾患に罹患後は，どのくらいの間隔でワクチン接種が可能でしょうか。

A

これらの感染症であれば，免疫学的に大きな問題となることは通常なく，回復すれば，不活化ワクチン，生ワクチンとも接種が可能になります。

回復後の「体調の安定」をみるために治癒後1～2週間ほどがおおよその目安となりますが，明確に基準といったものは設定されていません。ワクチンを早く接種するメリット，遅らせて接種するメリットとのバランスで判断をするのがベストですが，不明の場合の無難な判断としては約2週間の間隔が目安といっていでしょう。

感染によって免疫状態が一時的に低下すると考えられている麻疹のようなウイルス性疾患では治癒後4週間程度，風疹，おたふくかぜ，水痘などの場合には治癒後2～4週間程度の間隔をあけてワクチンを接種します。(参照 p25, Q8 p66, Q13)